



フタナリ

信じて送り出したフタナリ彼女が叔父さんの
調教にドハマリしてアヘ顔ピースビデオを送ってくるなんて...

明日奈は慌てて周囲を見回した。何人かが、遠くからこちらに視線を送っていた。それに気が付くと、ますますペニスが疼いてしまう。

「煙草吸ってくつがら、そんな間に済ませとげ」

そう言つて源二は、荷台に横んでいあつたブルーシートを拡げ、明日奈の身体に被せた。埃っぽいシートが拡がり、明日奈の姿を周囲から覆い隠す。続いて、どずつ、どずつ……と重い足音。シートの裾を上げると、源二の大きな背中が遠ざかつて行くのが見えた。

——嘘……!? こんなところで、オナニーしろつていうの……!?

源二の言葉が信じられなかった。いや、もつと信じられないのは、自分自身の身体だ。あんなに射精したばかりなのに、また勃起しているなんて。

おそるおそる手を伸ばしてペニスに触れてみる。

亀頭冠のあたりに指をかけると、精液のヌルリとした感触が返ってきた。そのまま軽く指を上下させると、精汁をローション代わりにして、くぶ、くぶ、くぶ……と雁首の段差が手のひらを擦ってくる。

「あ、ああ……だめだよ、こんなあ……♥」

甘い快感に戸惑いながら、明日奈はブルーシートの中で小さく体を丸めた。六分勃ちだったペニスがさらに一回り大きくなる。

——ねえ、晩御飯は何が食べたいの……?

その時、荷台のすぐ脇で、大人の女性の声が聞こえた。

バクン！ 胸の中を力いっぱい殴られるような衝撃。指を止める。呼吸を止める。いつそ心臓も止まってしまうばいのに……そんなふうに思いながら、全身を凍りつかせる。

——ええと、ええとね……おいしいもの！

——おいしいものじゃわからないでしょ？ 何か好きなもの言つて？

——だつてママのご飯、ぜんぶおいしいんだもん……。

軽トラックの横、ほんの一メートルぐらいのところを親子連れが歩いている。

お願い、こっちに気付かないで……！ 逃げることもできずに、明日奈は必死に念じた。握ったままのペニスが、手の中で、びくん、びくん、と震えている。血の気が引く思いなのに、身体の一部がひどく興奮している。子宮が疼く。淫褻が胎内で蠢く。膣口がゆるゆると開閉して愛液を咀嚼する。そしてペニスは明日奈の手の中で、焼けた鉄のようになつていた。

——じゃあね、カレー！ カレーがいい！

——ええ？ 昨日もカレーだったじゃない。

——だつておいしいもん。ぼく、毎日カレーでもいいよ。

ブルーシート一枚を隔てて親子の会話を聞きながら、明日奈はペニスを握り続けた。やがて親子の声が小さくなり、ようやく明日奈は息を吐いた。ようやく手の力を緩め、「あ

あ……！」と呻き声を漏らす。いつの間にかペニスが痛いくらいに勃起し、愛液と見紛うほどの激しさで、先走りの汁を滲ませていた。

「やだ、やだ、いつの間に、こんなに……！」気付かれちゃうかもしれないのに……！」
愕然としながらも、声が自然と上ずってしまふ。

認めたくない。でも、認めざるを得なかった。「見つかりそうなのに」興奮しているわけじゃない。今にも見つかりそうだからこそ、自分はこんなにも淫欲を滾らせているのだ。店内でも、レジでも、駐車場でも、そして今、あの親子が通り過ぎたときも……！」

「ふあ……♥ あ、ああ……チンポお♥ 勃起しまくってるうう……♥」
軽く握ってみると、ペニスにじいんと甘い痺れが走った。

亀頭粘膜がひどく敏感になっている。さつき散々に射精させられた、その時の感覚がまだ残っているようだった。

「くうう……私い……今、とっても恥ずかしいことしてる……♥」

左手の指を鉤型に曲げ、子猫の喉をくすぐるような仕草で、亀頭冠を愛撫する。

そしてもう一方の手で、先端のあたりを優しく撫で回す。しばらく甘弄りしていると、ペニスが嬉しそうにヒクヒク震え始めた。尿道口もばくばくと開閉し、撫でてくれる手のひらに愛おしげにキスを繰り返している。

「ああ……すぐ外を人が通つて……チンポシコシしてるすぐ外を……たくさん……♥」



夕飯の買い物にきた主婦、買い食いを楽しんでいる女子高生、ベビーカーを押している若夫婦……様々な人が、明日奈の横を通りすぎてゆく。ブルーシート一枚を隔てたすぐ隣で、とてつもなく淫らな行為が行われているとも知らずに。

「んっ、んっ、んふっ……ああ……凄いい♡ お外チンポすごいい……♡ 私、最低……すごいい最低だよ♡ でも、チンポは最高♡ お外チンポきもちーよ♡ お外シコシコすごいいいの♡ ああ……バレちゃう……こんなくっさいガマン汁ぴゅーびゅー出してたら♡ オナズリしてるのバレちゃうよおおっ……♡」

最初は声を必死に気配を殺していた明日奈だが、次第に大胆になってゆく。激しく擦り、身もだえし、淫声を漏らす。もし人に見つかったら、自分は一体どうなってしまうだろう——その瞬間を想像すると、期待で身体が震えてしまう。どうしようもないくらい興奮が加速してしまう……！

「裕樹……裕樹い……♡ 私……変態になっちゃった……♡ 外でチンポ擦るの好きなっ♡ 大好きなの♡ すっごく気持ちよくて♡ あんん……くああ……精液……精液ぶりゅぶりゅ出そうなの♡……♡」

心の中に、愛しい恋人の姿を思い浮かべる。

今の自分を見たら彼はなんと言うだろう。きつと愛想をつかすに決まっている。その軽蔑の表情を想像すると、ペニスがカアツと熱くなる。知らない人に見られるだけで、こん

なにも気持ちいいのだ。もし自分が愛する人にオナニーをして、みつともなく腰を振りながらザーメンを撒き散らす様を見てもらえたら、どんなにか気持ちいいことだろう……。

「あひゅ……裕樹い……♡ 見ててえ……♡ 露出変態のふたなり明日奈が、お外でチンポ汁ぴゅーびゅーするところ、たぐさん見ててええええええ……♡♡♡」

ぶばっ！ ぶぢゅるっ！ ぶぢゅりゅるるるるりゅるうううっ！

ついに限界を超えたペニスの先端から、勢い良く精汁が噴出した。

「ぐぶあああああ♡ しえーえき♡ びゅっくんびゅっくん♡ たくさん、たくさん♡ 出まくってりゅみゃあああああ♡♡♡」

ぐざん、と背骨が折れそうなほどに明日奈の背中が反り返る。

口からシリンドーを押し込まれて、身体の中身全部が一気に押し出されている……そう錯覚するほどの、激しすぎる射精だった。噴き上がった精汁は白い柱になり、ブルーシートを一瞬浮き上がらせる。直後、生温い雨が明日奈の頭上に降り注いだ。

「ふああああん♡ ざーめえん♡ ザーメンあったかくって♡ ヌルヌルでっ♡ 臭くて♡ 射精きもちいい♡ ざーめん塗れになるの気持ちいいいい♡」

もはや身体を支えることもできなくなり、明日奈は荷台に倒れ伏した。汁びたしのブルーシートが、明日奈の身体にべったりと貼り付く。

それにも構わず、明日奈は射精し続けていた。身体を横たえ、何度も、何度も、何度も、

繰り返しペニスを痙攣させる。荷台にできた水溜りに顔を突っ込んで、長い絶頂間に身を委ねる。

荷台の鉄板は夏の日差しで焼かれており、ぶちまけた精液はいつまでも冷めない。それどころかギラギラした午後の日差しは、シートに包まった明日奈を蒸し焼きにしてゆく。

——ふぁ……すごいにおい……♥

だくだくと汗が流れ、ぶちまけられた精液と交じり合い、湯気がブルーシートの中に立ち込める。そのザーメンサウナの中で、明日奈はうつとりとペニスを握り続けていた。

しばらくして戻ってきた源二は、中の様子を確かめると、表情ひとつ変えずに、明日奈をブルーシートでぐるぐる巻きにした。

「だら、行んべが」

シートから顔だけ出して糞虫のようになった明日奈を助手席に乗せ、シートベルトで縛り、車を発進させた。

シートに巻かれて行き場を無くした精液が、服を濡らし、髪に染み、毛穴から体内に浸透してゆく。精液を吐き出す快感は知っている。精液を子宮で受け止める快感も、この叔父に教えられた。そして今日、明日奈はまた新たな精液の味わい方を知ったのだ。絶頂直後の敏感になった肌で味わうザーメンが、こんなにも美味しいだなんて！ 明日奈は陶然としながら、ブルーシートの中でペニスをヒクヒク震わせ続けた。

* * *

『ごめんね、ずっと電話に出られなくて』

スピーカーから、明日奈の申し訳なさそうな声が響いてくる。

最近時間が合わなくて、お互いの電話もすれ違いばかり。久々に聞く恋人の声は、少し疲れているように聞こえた。

「なんか声聞くの、すごく久しぶりの気がするな」

『うん。ずーっとタイミング合わなかったもんね』

「なんつーか……こういうこと言うの恥ずかしいんだけど……すっげー寂しかった。明日奈がいなくてこんなに辛いなんて、想像してなかった」

『そう？ 私はわりと平気なんだけど』

「なんだよ、こんな時までツンデレですかあ？ お前にはデレが足り無すぎる！」

『だって、寂しいとか、会いたいよーとか、わざわざ言うのも今更って気がするじゃない？』

「違うの！ そういうのは心で思ってもダメ！ ちゃんと言葉にしないと相手に伝わらないの！ お前は昭和のガンコ亭主かつ!!」

ことさらに芝居がかった口調で言うのと、電話口から小さな笑い声が聞こえてきた。続い

ぶちばら文庫

フタレター

信じて送り出したフタナリ彼女が叔父さんの調教に
はいまりしてアへ顔ビースビデオを送ってくるなんて…

2012年 2月29日 初版第1刷 発行

■著 者 蝦沼ミナミ
■イラスト みさくらなんこつ
■原 作 ハースニール
■原 案 OZ

発行人：久保田裕
発行元：株式会社パラダイム
〒166-0011
東京都杉並区梅里2-40-19
ワールドビル202
TEL 03-5306-6921

印刷所：中央精版印刷株式会社

本書の内容を無断で複製・複写・放送・データ配信などをすることは、
かたくお断りいたします。

落丁・乱丁はお取り替えます。

定価はカバーに表示してあります。

©MINAMI EBINUMA ©HarthNir

Printed in Japan 2012

PP042



Parthenon
著：田中珠
画：井路六郎



ぶちばら文庫47
定価 670円 (税込)

露出彼女

るしゅつかのじょ

3月発売予定!

